

福島第一原子力発電所構内の線量状況について

2018/10/25



東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

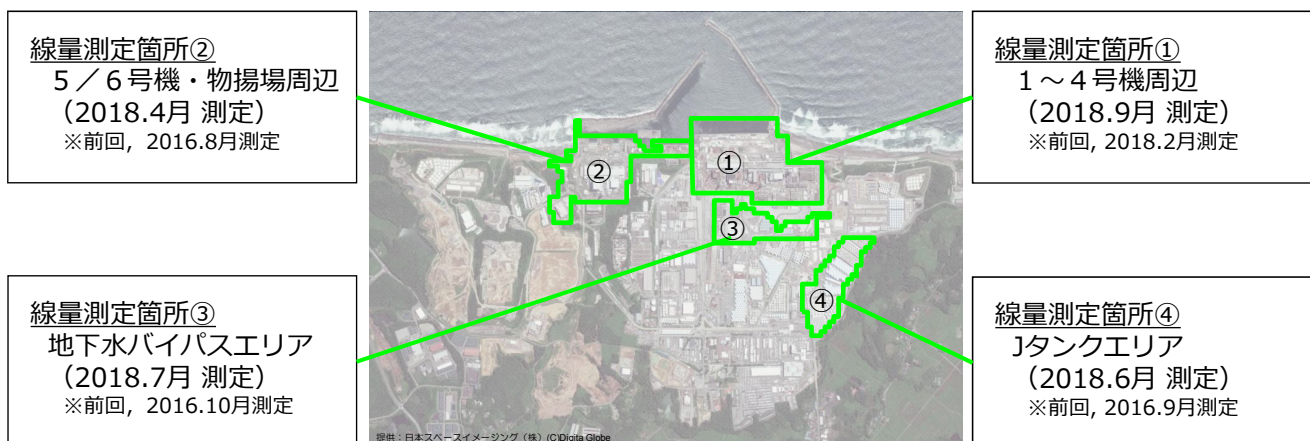
無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

1. 概要



福島第一原子力発電所構内の作業環境を改善するために、多くの作業員が働くエリアから、順次、表土除去、天地返し、遮へい等による線量低減を進めるとともに、これまで線量低減を終えたエリアについても、定期的に線量状況を確認している。

今回（2018年度上半期）、以下のエリアについて線量状況を確認した。



2. 1～4号機周辺[線量測定箇所①]の線量低減状況及び線量分布－ **TEPCO**

1～4号機周辺の平均線量率は、下表に示す工事等の進捗により2.5m盤及び8.5m盤ともに年々低下の傾向を示している。

■ 平均線量率 < 8.5m盤 >

単位：[μSv/h]

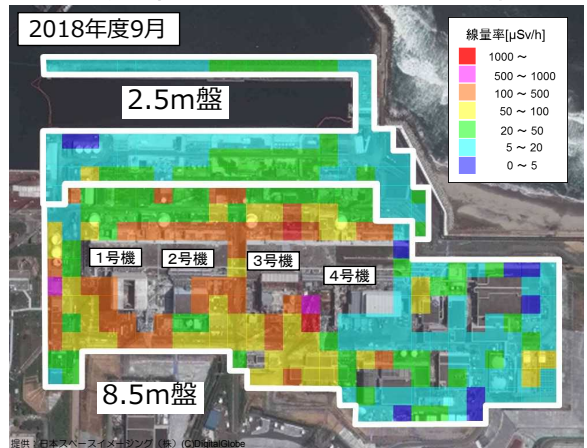
	胸元高さ	地表面 (リメト)	線量低減に寄与した 主な工事
2015年度 (2015.12)	283	160	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1～4号機山側法面の除染、フェーシング ・ 凍土壁工事や各工事のヤード整備に伴う瓦礫撤去等 ・ 3号機原子炉建屋オベフロ遮へい設置及び燃料取扱設備の設置 ・ 3/4号新サービス建屋の解体
2016年度 (2017.3)	205	97	
2017年度 (2018.2)	140	61	
2018年度 (2018.9)	127	51	

< 2.5m盤 >

単位：[μSv/h]

	胸元高さ	地表面 (リメト)	線量低減の寄与した 主な工事
2015年度 (2015.12)	62	16	<ul style="list-style-type: none"> ・ フェーシング工事 ・ 循環水ポンプ周辺の瓦礫撤去等 ・ 3号機原子炉建屋オベフロ遮へい設置及び燃料取扱設備の設置
2016年度 (2017.2)	27	6.9	
2017年度 (2018.2)	20	4.5	
2018年度 (2018.9)	19	4.0	

■ 線量分布 (30mメッシュ：胸元高さ)

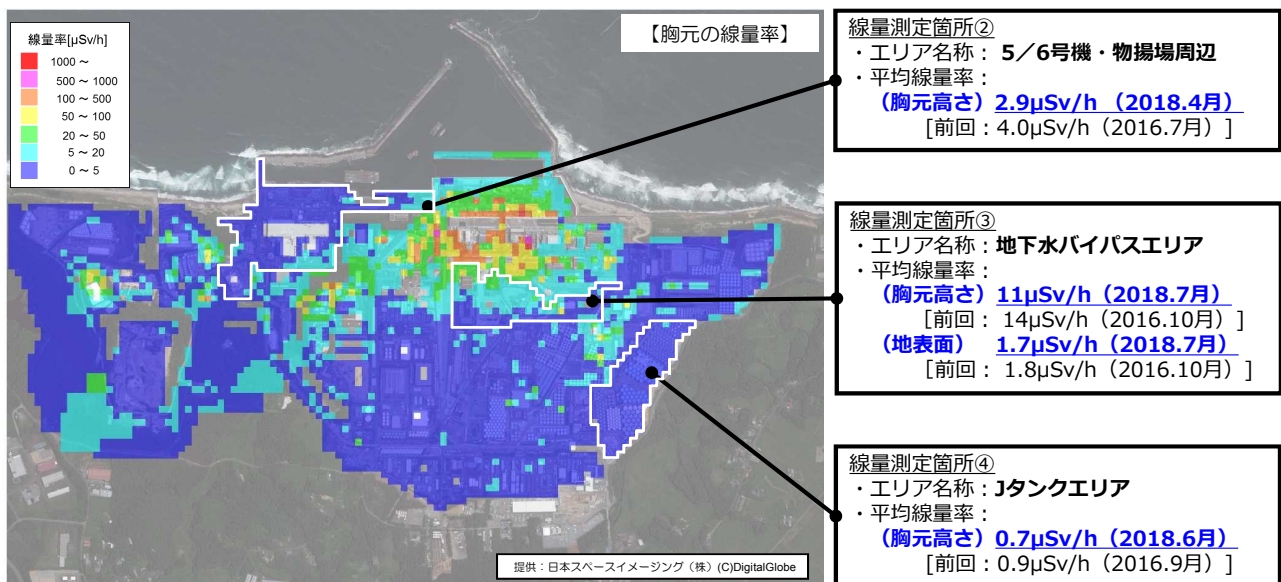


※1 胸元高さ：地表から1.5m高さ

※2 地表面 (リメト)：プラントからの散乱線等の影響がある場所について、線量低減効果を確認するため、地表面(地表面から1cm程度)をリメートして測定。

3. 1～4号機周辺以外(線量測定箇所②③④)の線量状況及び構内全域の線量分布 **TEPCO**

- 5/6号機・物揚場周辺(線量測定箇所②)は、物揚場周辺に仮置きしていた1号機原子炉建屋屋根パネルの移動等により、線量率が下がっている。(胸元高さ：4.0→2.9μSv/h)
- 地下水バイパスエリア(線量測定箇所③)は、3号機原子炉建屋燃料取扱設備の設置等により線量率が下がっている。(胸元高さ：14→11μSv/h)
- Jタンクエリア(線量測定箇所④)は、前回測定時と比べて線量率は変わらず低いレベルで維持できている。



4. 構内主要道路の線量状況 – 構内主要道路の走行サーベイ結果 – **TEPCO**

構内主要道路の線量分布は、年々、低線量側にシフトしている。

＜2016年度 第2四半期＞
(2016.8 測定)



＜2017年度 第2四半期＞
(2017.9測定)



＜2018年度 第2四半期＞
(2018.8 測定)



【参考】 構内全域の線量分布 (地表面[コリメート]、2018年9月)

1～4号機周辺を除き、地表面は概ね5[μSv/h]以下であり、フォールアウト汚染による影響は小さい。

